

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名	一般国道18号 上新バイパス <small>じょうしん</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局	
起終点	自：新潟県上越市中郷区市屋 <small>じょうえつ なかごうくいちや</small> 至：新潟県上越市下源入 <small>じょうえつ しもげんにゆう</small>	延長	24.6 km			
事業概要	一般国道18号は、高崎市から上越市に至る延長約200kmの主要な幹線道路であるとともに、地域の社会経済活動を支える重要な路線である。上新バイパスは、上越市を中心とした上越地域の南北の骨格道路を形成する約24.6kmの4車線道路である。					
S50年度事業化	S50・52・57・58年度都市計画決定	S50年度用地着手	S53年度工事着手			
全体事業費	約94.4億円	事業進捗率	56%	供用済延長	24.6 km	
計画交通量	14,200～44,300台/日					
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 2.8 (残事業) 2.1	総費用：(残事業)/(事業全体) 324/1,399億円 (事業費：289/1,315億円) (維持管理費：35/84億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 684/3,859億円 (走行時間短縮便益：543/3,512億円) (走行費用減少便益：99/282億円) (交通事故減少便益：42/65億円)	基準年： 平成16年		
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） 他12項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	上新バイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、上越市をはじめとする2市2町4村の首長で構成される上新バイパス整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成16年6月30日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	商業・業務・工業・住居系の開発が進められ、大規模小売店舗など広域的集客の商業施設立地がすすみ、上信越自動車道が全線供用したあとも、交通混雑は深刻化している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	全線を暫定2車線（一部完成4車線）供用しており、地元合意のもと用地買収も72%を終了している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	子安交差点～寺IC間（L=2.9km）は平成17年度に完成4車線供用する予定であり、残る区間の4車線化や交差点立体化は交通状況を勘案しつつ引き続き完成供用を目指す。					
施設の構造や工法の変更等	新技術、コンクリート構造物の大型化（長尺化）、プレキャスト製品の積極的な活用、建設発生土の有効利用、再生材を利用した舗装、路盤工の活用等により、コスト縮減を考慮している。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。